

1で示すがこれは原著の32の分析値のうちから特徴のあるものを選んだので決して平均的な組成を示すものではない。

5) 成因

この地区の高品位アルミナ粘土鉱床はアルミナ分に富む泥質堆積物が低度の変成作用をうけ pyrophyllite, andalusite などの変成鉱物を生じて生成した。紅柱石はその後の変成作用で kaolinite sericite に変わり現在のよ様なカオリン質の鉱石の鉱床に変わった。

6) 文献

岡本 保(1937) 朝鮮に於ける鉱物質業原料に就いて 朝鮮鉱業会誌 v. 20, n. 5, p. 270-366

○Lee, D. J. and Lee, S. R. (1986 a) Mineralogical study of high aluminous ores from Hwasoon, Cheonnam, KR-86-9, Korea Inst. Ener. Resou. p. 103-127.

○Lee, D. J. and Lee, S. R. (1986 b) Mineralogical Study of High Aluminous Ores from Chununsan Formation, Cheonnam, KR-86-2-2, Korea Inst. Ener. Resou. p. 7-47.

1/5 万地質図福および説明書 同福 福内.

地学と切手



活発な活動を続ける桜島をはじめとして7つ活火山を持ち 何かと桜島の影響を受ける鹿児島市を中心とする鹿児島県が主催した 世界で初めての国際火山会議を記念して 去る7月19日に発行されました。

この会議は“火山と人との共存”をテーマとして 内外の学者や行政関係者などの他に 関心の高い一般市民も参加して開催され 夫々の立場から 火山に関する研究の成果や経験等の情報の交換を行い 人々の火山に対する認識を深め 噴火予知とか防災対策の在り方 火山の活用方法等 地域の活性化に向け火山と人の共存の方策を探る事を目的として開催されました。参加国はオーストラリア 中国 イタリア フィリピン 米国

等 20数カ国に及び7月19—23日の間 鹿児島市民文化ホールを中心に開かれました。

図案の桜島は 昔から幾度かの大爆発を繰返してきた世界でも有数の活火山で 1955年以来でも5000回を超える爆発を続けております。この桜島の火山活動が周辺地域に及ぼす影響はこの会議が開催される事と成った要因の一つで 桜島の学術視察も会期中に行われました。



桜島を図案に取入れた切手は今回のものの他に 次のものが有ります。

- 1) 昭和37年4月30日発行の「錦江湾国定公園」切手：ただし この国定公園は昭和39年3月16日付で 屋久島と共に 霧島国立公園の地域に編入され 現在は『霧島屋久国立公園』と成っております。
- 2) 昭和59年5月19日発行の「国土緑化運動」切手の中にかいこうず(海紅豆：トウジンマメ カラマメとも呼ばれる)の花, 杉の森と共に その遠景に描かれております。 (T T)